

農業振興センターだより

からがらす

令和6年2月
61号

佐賀中部農林事務所佐城農業振興センター

普及課

☎0952-45-8888

☎0952-45-8880

〒840-2205

佐賀県佐賀市川副町南里1088

農業企画課

☎0952-45-8881

北部普及課

☎0952-56-2311

☎0952-56-2846

〒842-0301

佐賀県佐賀市三瀬村三瀬2959-1

佐城地区就農フェア開催



当センターでは、園芸産地の維持・拡大のため、管内の関係機関と一体となり、新規就農者の確保・育成に重点的に取り組んでいます。管内の主要園芸品目であるイチゴ・ナス・アスパラガスについては、毎年、新規就農促進を目的に「やってみようセミナー」を開催しています。

本年は新たに、「農業を始めたくて品目を検討中の方」を対象とした「就農フェア」を開催しました。フェアは11月26日に小城市芦刈地域交流センター「あしぱる」にて開催し、管内で生産が盛んなキュウリ・トマト・コネギの栽培概要を中心に紹介しました。

就農フェアの室内研修では、動画を交えながら各品目の栽培・経営状況を紹介し、補助事業等の就農支援策について説明を行いました。さらに、栽培ハウス見学では、キュウリ・トマト・コネギの圃場を視察し、生産者の方と話を伺いました。参加者からは農業の魅力や品目毎の栽培方法、生産の特徴などについて質疑があり、生産者と活発な意見交換が行われました。

今後も当センターでは、関係機関と一体となり、就農啓発から就農後のサポートまで重点的に取り組むことで、さらなる産地の強化を図っていきます。



トピックス



ミカン収穫体験会in小城を 開催しました

多くの労働力を必要とするミカン収穫において、広域的な労力補完を図るため、11月26日にミカン収穫体験会を行いました。当日は天候にも恵まれ、参加者13名、生産者とスタッフで約1トンのミカンを収穫しました。

体験会後のアンケートでは、6名の参加者が「収穫アルバイトをやってみたい」、1名が「就農（予定）」という結果となりました。一方で、特に学生は園地までの移動手段を持たない方も多いことから、実際の雇用では交通手段の検討が必要です。

また、農業アルバイトマッチングアプリ「daywork」の紹介も行いました。現場でのアプリ活用は始まったばかりですが、佐賀県やJAさがでは、農業者・求職者の双方からの活用を促していきます。



体験会の様子

夏秋ピーマンで農福連携の共 同作業がスタートしました！

三瀬・脊振地区の夏秋ピーマン産地にて選果場の施設を利用した農福連携によるピーマンへた切り共同作業が今年度よりスタートしました。農福連携コーディネーター等と連携し、佐賀市・神崎市内外の6つの福祉事業所と生産者6名のマッチングが実現しました。

作業は収穫最盛期である7月中旬から9月末まで、週に4日程度行われました。事業所の利用者からは「とても楽しかった。また来年も取り組みたい。」との声を頂き、生産者からも「労力軽減につながった。来年もお願いしたい。」とお互いにwin-winな取り組みになりました。

た。今年度の課題を改善し、来年度以降も継続できるような支援していきます。



ピーマンへた切り作業

若手農業者発展講座を 開催しました

佐城地区の新規就農者と若手農業者に対し経営発展への意欲を促進するために、「若手農業者発展講座」を開催しました。当日は13名の参加者が、県内の大規模経営農家2戸を訪問しました。

(株)基里OKファームでは大規模に露地野菜・米・麦を栽培されており、10年後の目標を立て、戦略的に経営されているお話を伺いました。

木本慎吾氏はミスナ等の葉物を2.2ha栽培されており、誰でも栽培管理ができる体制を作り大規模にハウスを経営されている様子を見学させていただきました。

参加者からは「規模の大きさに圧倒された」「高い目線で今後を考えていきたい」等の感想がありました。今後も佐城地区の若手農業者の経営発展のために支援を行います。



ハウスを見学する参加者

令和5年度

佐賀農業賞

受賞者紹介

先進的農業経営者の部

山口 豊喜さん・一代さん

山口さんご夫妻は、佐賀市東与賀町でカーネーションと米麦大豆の複合経営を行われています。就農した当初からカーネーション栽培を開始し、徐々に規模拡大しながら現在は50aの面積で栽培されています。高品質化への取り組みとして、土壌消毒方法の改善や圃場準備の工夫、土壌分析データに基づいた適正施肥の徹底、丁寧な選花等を実践されており、常に探求心をもち改善につなげられてきたことで品質にブレのない安定した生産出荷を実現されています。

また、地元の水田農業を維持するために生産組合長等も務められるなど、地域営農にも貢献されてきました。県の花きはもちろん地域を代表する生産者としても、今後ますますのご活躍が期待されます。



若い農業経営者の部

松尾 祐亮さん・柚衣さん

松尾さんは、ナスを栽培しているご両親とは経営を分離し、平成25年に小城市で施設ナスの栽培を開始されました。

就農当初より単為結果性新品種の導入やハウス内環境の見える化、日射比例灌水等の環境制御技術を積極的に導入されています。このような取り組みの結果、栽培管理の省力化や肥料コスト低減を図り、大規模の面積を経営しながら、瑞々しくぐぐみのない高品質ナスの生産を実現されています。

また、農業青年クラブ等の活動にも意欲的に取り組まれています。県内だけでなく全国の青年との交流を通して、他品目や県外の情報を収集し、自身の経営発展に活かされています。さらなる規模拡大を目標とされる松尾さんご夫妻の今後のご活躍が期待されます。



地域活性化の部

西川副農事組合法人

西川副農事組合法人の前身の任意組織は、県内でもいち早く共乾施設を核とした300ha規模の広域集落営農組織で、機械の集約化による投資負担軽減や作業時間の削減に努めてこられました。法人設立後は、昔から地域に根付く「相互扶助」を経営理念とし、農業機械の集約管理、旧JA支所の用地・倉庫の活用など、法人化のメリットを最大限に活かした生産費節減を実現し、構成員の所得向上に寄与されています。

また、法人が米麦大豆部門を効率的に経営することで、園芸農家が園芸部門に専念できるようになり、若手の営農意欲の向上や地域全体の活性化にもつながっています。

今後も地域と一体となった組織として、地域農業の更なる発展へ貢献されること期待されます。



献穀田

丹精込めて栽培したお米を新嘗祭に献上

宮中祭祀の一つである「新嘗祭」にお米を献上する佐賀県代表に、令和5年は、小城市三日月町の野口好啓さん・良子さんご夫妻が選ばれました。

6月4日には、地域農家・県市・JA等の関係者約60名が集まり、御田植式が開催されました。式終了後には、地元の農協女性部や小学生が県の育成品種「夢しずく」を手植えし、豊作を願いました。

リングをすき込み、有機質肥料を用いて減農薬栽培した稲は、野口さんの管理のもと、長雨や猛暑の夏を乗り越え、無事に収穫期を迎えることができました。9月18日の抜穂式では、豊作に関係者全員で喜びました。

収穫後は、野口さんの手で丹念に調製され、11月の新嘗祭に献納されました。





普及活動の取り組み



経営計画の実践による キク農家の経営発展

キクは佐城管内では生産者、作付け面積とも多い主要花き品目です。近年は気象災害や価格の低迷等により経営に困難な状況が続いていることから、個別生産者ごとの課題に応じた対応策を検討し、実践支援に取り組みました。

品目転換した農家については、品種に応じた栽培計画の作成を行い、ハウ入回転率の向上につなげました。また、冬期のコスト削減技術の導入や秀品率向上に向けたCO₂施用などに取り組み、他生産者にも取り組みが広がっています。

今後も、それぞれの生産者に応じた課題を把握し、改善に向けた支援を行っています。



研修会の様子

中山間直払制度の協定組織を 核としたミカン産地振興の ための体制づくり

佐賀市大和町久留間の横馬場地区では中山間直払の協定組織の役員を中心として、集落一丸となつて有害鳥獣対策や耕作放棄地の解消およびミカン園の維持に取り組みれています。

令和2年度から振興センターとして横馬場地区の活動への支援を行っており、耕作意向マップの作成やイノシシ被害対策など、今後のミカン園の維持・発展に向けた体制を整えています。

また、この4年間でイノシシの潜み場として問題になっていた耕作放棄地5ヶ所がミカン園として再生されました。

ミカン産地はどの地区も同様の課題を抱えています。この活動をモデルとして他地区への支援を行っています。



集落研修会の様子

ホウレンソウの 新たな担い手に対する 経営確立支援

佐賀北部地域では冷涼な気候を活かしたホウレンソウ栽培がなされています。担い手不足を解消するために開設されたトレーニングファームの修了生が安定的に経営していけるよう、令和3年度から支援してきました。

まず、地域の中で安定的に栽培していけるよう関係機関で検討する場として「未来会議」を設置しました。産地振興ビジョン、就農サポート制度、トレーニングファーム協議会での奨励金支給対象年齢の拡大等につなげました。

また、技術支援ではJAと一緒に毎月巡回を行いながら土壌改良、病害虫防除、かん水等の指導をしたことで収穫量が飛躍的に改善されました。現在、べと病の被害が見られることから対策試験など更なる支援を行います。



未来会議の様子



収穫前の圃場